

[大城 勝議員 登壇]

○3番 大城 勝君 3番 大城 勝です。通告書にしたがい質問します。質問は大きく分けて5つです。一括して質問したいと思います。質問1. 南風原町沖繩戦終結70年平和祈念事業について(1)町が行う平和祈念事業の開催趣旨は、恒久平和を希求する町民の心と同じであると推量しますが、町行政の平和祈念事業に対する思い入れのほどを聞きたい。(2)どのような祈念事業が実施されてきたか。また、これからの予定・計画を知りたい。(3)今までの祈念事業の開催で町民の関心度、反応をどのように捉えているか。(4)平成24年度に600部数発行された『戦世の南風原(南風原町誌第9巻戦争編本編)』の書籍がある。ここに議会事務局所有の実物があります。この書籍は、祈念事業の趣旨に沿った読み応えのある書籍と評価したい。戦後70年平和祈念事業の一環として増冊編集して町民に廉価で配本できないか。

質問2. 健康増進の日の制定を。(1)町の陸上競技大会は、町行事のなかでも町民が多く集まるイベントである。健康にとって運動することの大切さを町民に周知するために、その日を南風原町民の健康増進の日として制定できないか。(2)日頃から健康に留意し、無理のない生活を送っている多くの町民にその生活スタイルを称える仕組みが作れないか。健康増進の日がプリントされたタオルの配布があってもいいと考えるがどうか。(3)健康増進の日は、黄金森公園では陸上競技をとおして運動の面から協議が展開されるが、ちむぐくる館では健康展などを開催して保健、栄養の面から健康を考えることの催しができないか。

次に質問3. 南風原町産品の推進について。(1)南風原産へちまの販売促進の一環で、「はえばる美瓜」の銘柄商品は誕生したと思う。はえばる美瓜の普及拡大のためにも、出荷する製品には「はえばる美瓜」のネーミングを入れるなどの工夫が欲しい。そのための町財政負担ができないか。(2)プレミアム付きはえるん商品券の売れ行きを知りたい。南風原町は、プレミアム率20パーセント、1人当たりの割り当て上限額が3万円などの売り出し条件だが、他の自治体と比べ本町の商品券の販売筋はどうか。また、町民の反応はどうか。(3)南風原町のイメージキャラクター「はえるん」を刷り込み、南風原産品の愛用の文字をキャッチフレーズにして入力したシールを頒布できないか。そうすることで町民にまずは南風原産品を考えるという意識高揚につながると思う。

質問4. 緋会館の日曜日開館について。(1)緋会館は、従来の日曜日閉館を見直し、日曜日も開館するとのことだが、このことは組織改革の表れだと評価したい。従来あるしきたりを変えるのは、そうたやすいことではないと考える。琉球緋組合の日曜日開館への流れは、町行政の働きかけがあつてのことか聞きたい。

質問5. サイエンスショーについて。サイエンスショー見学の目的・意義は何か。この見学は、理科離れと言われる児童を食い止める効果が期待できる。(2)サイエンスショー見学において、児童1人当たりいくらの必要経費となるか。過去の見学人数と予算額を知りたい。(3)見学は、日頃の授業の一環だと思うが、その日頃の授業学習や家庭学習に見学は生かされているか。例えば授業のテストで見学内容からも出題がされているなど、家庭では親子で見学の内容を話題にしているか。

(4) 数年前に見学した五、六年生は、もう中学生になる。サイエンスショー見学の効果を検証したことはあるか。中学校の理科教師の声はどうか。(5) このサイエンスショーの魅力は、大勢の観客が目の前で実演を見ることができ、感動体験を共有できるところにあると、私は実際に見学して感じた。今後もサイエンスショー見学の予定はあるか。以上です。ご答弁をよろしくお願いいたします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 まず質問事項1点目の南風原町沖縄戦終結70年平和祈念事業についての

(1)についてお答えします。戦後、疎開した児童の引上げ、再開の喜び等、焦土と化した沖縄、南風原の地で新しい時代を切り開いていく機運が高まってきた終戦後の昭和21年10月12日、現南風原小学校で役所業務が開始されました。全ての町民が等しく平和で豊かな生活が送れるまちづくりを進めることや、悲惨な出来事を風化させないためにも戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを伝え発信するための日として、平成25年3月定例会で10月12日を南風原町民平和の日と制定したところです。今後も引き続き世界の恒久平和を願って平和行政に取り組んでまいります。(2)についてです。これまで平和祈念事業として大見武から南風原小学校まで当時の人々が歩いたであろう道のりを歩くピースウォーキングや役場町民ホールでのパネル展、町民平和の日に合わせた町慰霊祭等の事業を行っています。本年度は、沖縄戦終結70年の平和祈念事業として4月に「ガンマ～月桃の花」上映会282名来場、6月に「平和の願い～歌は友だち2015」300名来場、南風原文化センターで「受け継がれる記憶～ヒトからモノへ モノからヒトへ」の企画展500名来場と特別映画鑑賞会、8月にドキュメンタリーアニメーション「対馬丸～さようなら沖縄～」上映会90名来場、そして10月には平和コンサートを行います。(3)についてです。平成25年第1回ピースウォーキングは、約30名が参加し、当時の状況がよく分かったなど好評でした。町民ホールでの平和の日パネル展でも来庁者の多くにご覧いただきました。文化センターで開催した企画展や映画鑑賞会などの事業でも平和への思いを深くした、平和の大切さを再認識した等、感想をいただき、参加された皆さんには平和の関心が高いと感じています。

質問事項2点目、健康増進の日の制定を(1)、(2)、(3)は関連しますので一括して答弁します。毎年9月は、健康増進普及月間となっており、テレビ、ラジオ、新聞等のマスメディア、ポスター、リーフレット等を活用し、運動習慣の定着や食生活の改善など健康的な生活習慣の実践、その重要性について普及啓発を図る取組が国や県、各市町村で行われています。本町においても南部福祉保健所との共催でイオン南風原店イベント広場での健康展やちむぐる館でのポスター展示、フードモデル等の展示を実施しております。このようなことから町が健康増進の日の制定を考えてはございませんが、ご提案の率先して健康づくりに取り組んでいる住民を称える仕組みについては、今般の医療保険制度改革でも努力義務として位置づけられており、今後検討してまいります。

3点目の南風原町産品の推進について(1)であります。へちまを出荷する際の製品、パッケージへの美瓜の使い方については、現在、JAや南部農業改良普及センターなど関係者を含め、より効果

的なブランド力を発揮のための検討を行っています。地域の生産農家の意向も伺いながら工夫をしていきたいと考えています。（２）についてです。商品券の販売は8月17日より開始し、4万6,700冊が7日間で完売いたしました。県内の商品券販売状況は、プレミアム率20パーセントの自治体が67パーセント、30パーセント以上が31パーセントあります。1人当たりの購入限度額5万円以上の自治体が53パーセント、本町と同じ購入限度額3万円の自治体は19パーセントとなっております。商品券の販売筋としましては、手続きの簡素化、旧盆前の発売、大型スーパーや24時まで対応可能な販売店舗加盟店が多かったことから、近隣市町村に比べて売れ行きも良く、町民の反応も良かったと考えています。（３）についてです。貴重なご提言、ありがとうございます。現在、そのような事業は計画しておりませんが、ご提案の南風原産品を第一に考えるという意識の高揚についてどのような方法に効果が得られるか事例などの調査・研究を行いたいと思います。

4点目、緋会館の日曜日開館について（１）にお答えします。緋会館の日曜日開館については、これまで町内外から多くの声が寄せられており、町としても緋事業と町観光事業の今後の発展に寄与できるものとして要望を行ったところ、琉球緋事業協同組合が自主的に自治会や職員との意見交換や検討会を重ねた結果、日曜日の開館に至ったということがあります。以上であります。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 大城 勝議員の質問事項1. 南風原町沖縄戦終結70年平和祈念事業に関するご質問にお答えいたします。（４）南風原町誌第9巻の件でございますが、南風原町誌第9巻戦世の南風原は、反響が良く在庫切れとなりました。今後、状況も確認いたしまして増冊等を検討してまいりたいと考えております。

質問事項5. サイエンスショーに関するご質問にお答えいたします。（１）でございますけれども日常生活では経験できない科学の不思議体験から児童の科学への興味・関心を高め、物事を考える力を体験してもらうために実施してございます。サイエンスショー実施後のアンケート結果から、サイエンスショーの鑑賞が児童の学ぶことに対する興味・関心の向上に一定の効果があつたものと考えております。（２）平成25年度の予算は、329万7,000円、見学者が838名。平成26年度予算356万3,730円、見学者が820名。平成27年度予算が371万5,200円、見学者859名です。児童1人当たりの経費としては、約4,200円程度になると考えております。（３）サイエンスショーの趣旨と五、六年理科の内容とは違いがあり、直接テストに出題することはありません。ただし、興味を持った児童が夏休みの自由研究に関連した内容を取り上げたりしています。また、見学後の感想を日記に書かせることで親子で会話することもあつたと聞いています。サイエンスショーは、児童の興味・関心を高めるには有効であると考えています。（４）でございます。中学校にはサイエンスショーの告知をしていないので直接的な検証はしてございません。ただし、理科の先生方からは、生徒の興味・関心を高める機会としては効果があると回答を得ています。サイエンスショーについては、小中学校とも継続を望む回答がありました。（５）でございますが、平成28年度も同事業が実施できるように計画をし

てまいりたいと考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 3番 大城 勝議員。

○3番 大城 勝君 ご答弁、どうもありがとうございました。それでは、再質問させていただきたいと思います。それと私の意見を述べたいと思います。南風原町の沖縄戦終結70年平和祈念事業についてですが、答弁のなかにも恒久平和を願う事業を多く行っていくとありました。この大戦ではわれわれ南風原の地でも多くの人が亡くられました。この多くの御霊のことを思うとき、二度と戦争の道を辿ってはならないという強い思いは、誰もが願う平和への祈りへとつながるはずで、戦争のことが風化し、過去の歴史の一つの事象として過ぎ去っていかうとする時、戦後70年を経た今に町が平和への祈念事業の催しものを行うことは高く評価されて然るべきです。それから、今までにどのような祈念事業が行われてきたかということで、7つから8つの事業が行われてきたと答弁をいただきました。これからの実施予定では、平和コンサートを行うとのことですので、大成功に終わって欲しいと思います。それから平成24年度に600部発行された戦世の南風原の書籍は、増冊編集をして町民に廉価で販売できないかという私の質問に、今後増冊の検討もあり得ると答弁をいただきました。従来の書籍、戦世の南風原は字の大きさが小さく、高齢者にはもう少し読みやすくする工夫が必要であろうと思います。町は戦世の南風原を電子ブックでも配信していますが、中高年齢者などのインターネットを使いこなせない者には従来の書籍のほうが読みやすいと考えます。この従来の書籍には、手に取って紙の触感を確かめながら読めるという電子書籍にはない特徴があり、戦争体験をした中高年齢者年齢層にとってはまさにその紙の書籍が望まれると思います。この戦世の南風原の書籍を読みたいと切実に思う年齢層は、戦後70年の今となつては戦争体験者か戦後直後に生まれた世代なのかなと感じています。つまり、団塊の世代と言われた年齢層ぐらいまでなのかと、私の周囲に戦世の南風原の読書感を聞いてみますとそのように思わざるを得ません。それ以後の世代には、戦後70年間の時間はあまりにも遠いところの話に風化してしまっている感がします。しかし、だからこそ70年前に戦世で起こった出来事は町民の心の中に組み止めておくべき事柄だと思います。そのためには、この戦世の南風原の書籍がもっと多くの町民に読まれて然るべきとの思いです。先ほどもお話ししましたが、増刷などを検討したいとの答弁をいただきましたので期待したいところです。

それから、健康増進の日の制定ができないか提案しましたが、すでに健康増進普及月間があるとのことで理解しました。健康増進がプリントされたタオルについてですが、町民それぞれが健康増進月間期間は、健康に良いことを何か1つは行うことにする月間であってもいいと思います。ウォーキングを始めるとか、酒を控え体を休める月にするとか何か健康を意識する月間となるきっかけに健康増進のタオルを配布してはどうかということです。

次に、南風原町産品の推進について。はえばる美瓜の普及拡大についての答弁をいただきました。JAや農業改良普及センター、地域の生産農家などの意向も伺いながら普及拡大を工夫していくことと理解しました。ビューリーズというはえばる美瓜を応援する、町の少女たちで構成するダンスグ

グループがありますが、そのグループは町のいろいろな催し、表舞台で活躍しています。ヘチマの美瓜にもシールなどを付けるようなことをして、日の目を見させて表舞台に出して欲しいという思いで質問しました。

次に、プレミアム付はえるん商品券についてですが、その売り出し条件の設定はうまく行っているように見えています。プレミアム率割当額や各家庭へのハガキなどの通知方法などにおいて、他の自治体が新聞報道などで不手際が報じられているのとは比べ、本町の販売方式はよく調査研究されていると考えます。今年の暮れには、この商品券事業は終了しますが、今はその中間地点と言えます。年明けにはその事業の販売過程と結果をきちんと検証できるためにも、今後は町民の商品券の利用動向に注意し、いろいろな声をアンケートなどで集めるなり町民の生の声を拾うなどしておく必要があると考えます。今回の地方創生事業の一つであるプレミアム付はえるん商品券に関しては、町行政と町商工会がうまく連携していると評価しますが、今一度この連絡のあり方について、連携のあり方について町行政の考えをお聞かせください。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 今回、実施しましたプレミアム付き商品券の販売につきましては、直接町で対応ではなく商工会さんのほうに委託ということで行いまして、商工会さんの調査、努力のお蔭をもちまして先ほど勝議員からもお褒めいただいたとおりに無事完売にこぎつけた次第でございます。今回のプレミアム商品券につきましては、先ほど議員からもありましたとおり、かなり創意工夫がされておりまして、同率的な内容、例えば上限額3万円、プレミアム率20パーセントの同じ内容のなかでは突出して販売の実績を上げているような状況であります。最終的な精査はこれからではありますけれども、近隣の市町村に比べましてかなりこの販売方法やその他の率につきましてもかなり良かったのではないかと考えております。町行政の考え方としましては、今回のプレミアム商品券販売は上々な結果ではなかったかと考えております。

○議長 宮城清政君 3番 大城 勝議員。

○3番 大城 勝君 どうもありがとうございます。今後もこのような内容のものがあれば、今回のような方式を取り入れて、調査・研究をしてやっていただければと思います。どうもありがとうございます。

次は、南風原町産品愛用の文字をキャッチフレーズとして入力したシールを頒布できないかについてです。今議会の初日に、町商工会からの陳情議案を本議会は全員で可決しました。地元産品、つまり南風原町産品を優先使用してくれとの陳情を可決したものであります。町行政は、その要望に応えるべく町民の意識を上げるための行動をしてもよいと思います。答弁でも町民への意識高揚について調査・研究されることと理解しました。

それから、絣会館の日曜日開館について。絣会館が日曜日にも開けるといふその波及効果は、絣事業だけに留まらず、南風原町発展のためにも大きな意義があると思います。現代の多くの人々は生活様式が多様化するなかで日曜日の余暇時間をどのように過ごすか模索している感がします。絣会館は、そのような人たちにも目を向け、文化センターや観光協会とうまく協調し、町内外からの観光観客の誘致に一工夫できるのではないかと考えます。ここで想像してみてください。絣会館で絣の着物を着付けした人たちが、絣会館を拠点に少し柔らかくなった秋の日差しを受けかすりロードを散策している姿は風情があります。路地を通りながら家々から聞こえてくるのは機織りの音です。私が今付けている上着は、琉球絣の柄がワンポイント入った洋服ですが、私はいつか「くずれ格子」鳥柄で紺地の絣の着物をつけてくつろいでみたい。琉球絣の着物姿の男性が、かすりロードを歩く姿が違和感なく絣の里に容易に溶け込むほどになって欲しい。私の世代には、私のような思いを持つ者がまだまだいると思います。絣組合は、消費者の欲しがる商品などその開発や効率的な販売方法にも研究・努力をし、市場拡大を図る活動に精を出して欲しいと思います。つまり、マーケティングにしっかり力を入れてやって欲しいという気持ちです。今後、絣組合を町行政が連携し合ってわが町の伝統工芸の一つでもある絣事業が盛り上がりて欲しいと思いますが、絣事業の市場拡大を含め町行政の考え、思いを聞かせてください。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 先ほど議員がおっしゃいました絣の着物を着て、例えば本部や照屋のかすりロードを散策している姿を思い浮かべますと非常に風情のある風景ではないかと考えます。そのように、絣の着物等が何か行事があるときだけではなくて、平生から身近に感じられる絣になるように町行政としましてもこれまで以上に絣に対して支援をしていきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 3番 大城 勝議員。

○3番 大城 勝君 どうもありがとうございました。

次は、サイエンスショー見学についてです。児童1人当たりいくらの必要経費となるか、つまり、このサイエンスショーの費用対効果はどうなのかを問うているわけです。先ほどの答弁で1人当たり約4,200円程度だとありました。ただ単に、金銭面から見ると少し金がかかっている感じがします。しかし、子どもたちの科学する心、感動する姿を見るとき、十分に費用対効果は高いと見ています。このサイエンスショーは、一括交付金事業ですが、将来も継続して開催を考えるとやはり財源の捻出が課題だと考えます。サイエンスショーの誘致に他の自治体と連携をし合っただけの経費削減を図る手があってもいいと考えます。今回、私は議員の立場から見学させてもらいましたが、一般の父兄にも十分ためになるショーである。今後、続けて計画してもらいたいという思いです。今日は5つの大きな質問をさせていただくためここに立たせていただきましたが、町行政の誠意あるご答弁をいただき

感謝いたします。これで3番議員大城 勝の質問を終わります。